

平成 28年度 高松市事務事業評価表 (事中・事後評価)

事務事業名	「いざ里山」市民活動支援事業		
部 局 名	創造都市推進局	課(室)名	農林水産課
電話番号	087-839-2422		

【事業全体概要】まちづくりの目標：人と環境にやさしい安全で住みよいまち

総合計画	政策	環境と共生する持続可能な循環型社会の形成		主体	その他
	施策	環境保全活動の推進		期間	平成 27年度～平成 28年度
	基本事業	自然環境の保全		総事業費	21,062
重点取組項目	重点取組課題 3		特定財源	国	
関連根拠法令等	森林法 〔高松市森林整備計画〕			県	
事業区分	自治事務	種別		事中・事後	市債
事業種類	単独			他	
				一般	21,062

事業の概要
 市内に点在する、メサやピュートと称される、高松の特色のある里山を保全するとともに、市民が身近な自然を見直すきっかけづくりのため、地域住民、ボランティア団体、NPO及び企業等が行う里山の保全活動を支援する。
 1日山 2堂山 3勝賀山 4浄願寺山 5石清尾山 6由良山 7久米山 8薬師山 9タカト山 10上佐山、以上10団体は平成26年度で支援終了。
 11まぐさ山 12荒神林の山 13いわわれの石の山 14天神山、の4団体で新制度の元で平成27年度から事業開始。毎年、2団体程度を募集し、5年間、100万円を限度に活動を支援する。

【事業の目的と指標】

対象	里山の整備保全面積	対象指標名	
		荒廃面積(里山)	
手段	ボランティア団体と協定を結び、清掃、除草、自然学習活動等の活動に対して支援する。	活動指標名	
		補助金交付件数	
意図	支援事業を通じて、里山が身近なものとなり、里山の整備、保全が図れる。	成果指標名	
		里山・保全活動面積	
結果	ボランティア団体との協働により、荒廃した里山の整備を行い、環境保全に努める。	効率指標名	
		100万円当たり補助金交付件数	

【指標値および事業費の推移】

指標名	単位	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	目標値	目標年度
対象指標	ha	45	45	45	45	
活動指標	件	11	11	4	10	
成果指標	ha	3.4	3.4	2.9	5	
効率指標	件	4.5	4.6	1.4	2.9	
トータルコスト	[千円]	2,424	2,401	2,898		
(事業費)	[千円]	976	925	1,363		
(職員人件費)	[千円]	1,448	1,476	1,535		

【環境変化等】

開始時周辺環境(背景)	現状周辺環境	今後周辺環境(予測)	住民意向分析
里山の荒廃が進む中で、市民の環境への意識が高揚しており、また、荒廃が一因でイノシシ等の鳥獣被害が拡大している。	身近な自然環境である里山保全への市民ニーズが高まっている。また、里山の荒廃を一因としてイノシシ等の鳥獣被害対策が望まれている。	ボランティア団体等との協働により、里山の保全を図ることができる。市民が身近な自然を見直すきっかけとなるとともに、地球環境への関心が高まる。また、イノシシ等鳥獣被害対策及び山地災害防止に寄与する。	周辺地区の住民等が里山にふれあう機会が増えている。

【妥当性評価】

1. 事業の実施主体として市の関与は妥当か
B 現段階では市による実施が妥当である 市街地近郊の里山については、本格的な森林ボランティア活動は行われていないため、里山保全・整備を行うボランティア団体の設立及び活動に支援を行うことは、市民との協働事業として妥当である。
2. 事業の上位目標である施策に貢献しているか
B 貢献度が中程度 / 義務的事業 地球温暖化対策京都議定書目標達成計画「チーム・マイナス6%削減」に寄与するとともに、その普及啓発を図ることができる。総合計画の「2:人と環境にやさしい安全で住みよいまち」の推進にも寄与できる。
3. 成果を上げるため、またコストを削減するため、対象あるいは意図(目指す状態)を拡充・縮小する必要があるか
B 必要性は中程度 森林及び里山保全は、合併町地域審議会(塩江・国分寺町)で要望事項としてあがっている。また、環境活動を目的とするNPOも増加していることから、市民ニーズも高い。
4. 事業を廃止・休止した場合に影響があるか
B 影響は中程度 里山の荒廃が進む恐れがある。
5. 市民協働の実施状況はどうか(どのような市民参画・市民活動との連携等を実施したか)
A 事業のプランづくりの段階からNPO、市民団体が参加している 平成26年度末で既存の各団体には自立していただき、平成27年度から新規の4団体で事業を再スタートした。今後も毎年2団体程度を募集し、5年間・100万円を限度に支援していく。

【有効性評価】

6. 事業の成果(成果指標値)を向上させる余地はあるか
B 向上余地が考えられる(中小程度) ボランティア団体への活動の拡大により、向上させることができる。
7. 事業執行上の見直しを行ったか(昨年度何か業務の見直しを行ったか)
A 実施済み / 実施する必要がなかった 支援を行ってきた11団体には平成26年度で卒業していただき、平成27年度から新たに4団体で事業を開始した。今後も毎年2団体程度を募集し、5年間、100万円を限度に支援していく。
8. 成果目標値に対する実績値(達成度)はどうだったか
B 目標どおり達成できた 地域住民、ボランティア団体、NPO及び企業等(以下、「活動団体」という。)が行う里山の保全活動に要する経費の一部を助成しているのは、香川県内では高松市のみである。

【効率性評価】

9. 成果を達成するための活動量(活動目標値に対する実績値)はどうだったか
B 目標どおり達成できた 新たに4団体で事業を行い、2年目以降も参加団体は増える予定で、里山保全活動面積の増加が図れる。
10. コスト縮減ができたか
D 縮減できなかった 新たな団体でスタートした初年度であり、イニシャルコストへの補助が増えたが、2年目以降の団体については、今後ランニングコストが主となるため、コスト減へとつながると考えられる。

【一次評価】

評価区分	継続																		
新制度での事業も計画どおりに進捗し、ボランティア団体等の活動により、里山の保全が図られている。																			
改革案																			
内容	期待効果																		
補助金がなくても自立した活動ができる団体の育成を目指す	<table border="1"> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>維持</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	成果	コスト			削減	維持	増加	向上				維持				低下		
成果	コスト																		
	削減		維持	増加															
	向上																		
	維持																		
	低下																		
	阻害要因																		

【二次評価】

評価区分	継続
新制度での事業も計画どおりに進み、今後とも活動団体の積極的な参加を募り、里山の保全を推進を図る。	